



手づくり 夢をたくして

朝地町市万田

ひら た
平田 むつみ

楽しく大切に、心をこめて手づくりしたい。たくさんの方に暖かな安らぎのひと時を過ごしてもらいたい。

手づくりに夢を話し、お店を始めて3年。同時に町の活性化、新たな商業ゾーンにという夢も託されました。でも、現実はとても厳しいものです。

「夢だけでは、食べていけない。だけど夢がなくては生きていけない。ここには、夢がある。めげずに頑張る。」

お客様にいただいたことばが、今、私の心の支えになっています。たとえ、どんなに小さな物でも、心をこめてこつこつと作り上げてゆく。受け取る人の笑顔を思い描いて。手づくりの「心」です。政治や教育、私たちの社会もこうあって欲しい。

今年、隣のお店と共に豊後大野市の「まちの駅」に参加しました。「ほっとステーション」いいですね。この小さな町の小さなお店に夢と希望をいっぱい詰め込んでお待ちしています。

微力ながら町や人々に元気を出していただけるよう、ここで頑張っていきます。



▲思わず手にとってみたくなる…
すべて手づくりの小物



その人らしく…

清川町砂田

しば た さと み
柴田 智美

「これからも今のままの清川であってほしい。」

キャリア・スタート・ウィーク（職場体験）を終え、エイトピアおおので行われた体験発表での中学生の言葉が耳に残る。中学生ながら感じた自然や人、環境を含めた地域の豊かさを認めた素直な言葉だったのだろう。

昨今、マスコミを賑わす子どもへの虐待、いじめ、自殺とは無縁だなと実に頼もしく感じた。

しかし、その反面、豊後大野市でもネグレクトといわれる育児放棄、虐待などが数々あると聞く。支援は充分か、対応は行きわたっているのだろうか、ふと疑問が残る。ともすれば、後手へ後手へと回る行政の対応の不充分さに憤りを感じることもさもある。

そう考えた時、分野別に行われる福祉サービスだけでなく、年齢を問わず障がいの有無、程度、種類に関わらず誰でも柔軟に受け入れられるサービス作りの必要性を痛感する。

地域の一員として誰もがその人らしく、安心して生活できる「まちづくり」を望む。

胸をはって故郷が誇れるように。

